

魅力ある会



第65号
発行責任者
佐藤 薫



大宮退職校長会

副会長 橋本 栄

大宮退職校長会にお世話になり10年が過ぎました。この間、理事、幹事を務め、今年度から副会長を仰せつかっています。個人的な話になりますが、これまでの会の活動に参加させていただいた感想を書かせていただきます。

①理事研修会の報告を仕事の参考にしていきます。私は今、

教職支援の仕事をお手伝いしているのですが、学校現場の様子を知る機会は多くありません。コミュニケーションスクール、いろいろ学園等、研修会で市のような取組をお聞きするのは参考になります。

②会報を楽しみに待っています。

す。「私のときめきライフ」は刺激になります。第二のお仕事、記録に挑戦、文化芸術活動等々、本気度満点のライフに感嘆しています。「会員の声」は、昔を懐かしく思い出させてくれます。これからも多くの方からの声を楽しみにしております。

③愉快なのは懇親旅行と史跡巡りです。道中、先輩後輩関係なく昔話をしながら歩き、学ぶ。これが実に心地よいのです。担当副会長として福利厚生部会に参加すると、打合せや下見、案内人依頼や昼食会場の予約など、ご苦労の多いことが分かりました。でも、

楽しいです。④素敵な趣味に出会うことができました。美術展で見た写真に感動し、写真同好会に入っていたきました。健康づくりの山歩きと抱き合わせで写真撮影を楽しんでいます。お気に入りの写真を美術展に展示していただいています。美術展準備委員会の皆様に感謝です。

⑤副会長になり、これまで意識してこなかった課題を肌で感じています。まず、新規入会者の減少と役員のなり手不足です。現職の期間が延びたことも影響しているかもしれません。これからも理事・幹事の皆さんと一緒に楽しい活動を続けていきます。深刻なのは財政のひっ迫です。会計担当の見通しでは数年後に赤字になるそうです。私も郵便物をできるだけ手持ちで届けることを実践しています。抜本的な改革が必要でしょう。

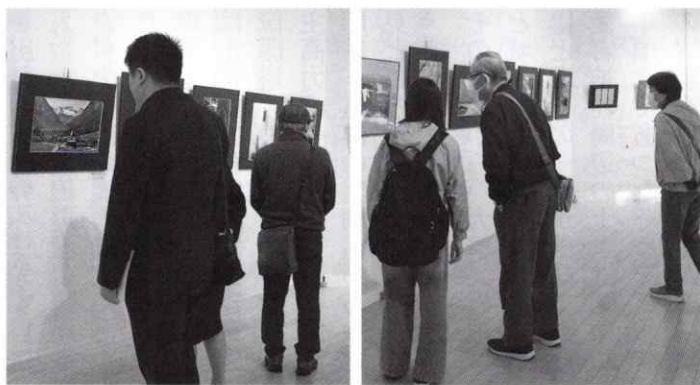
本会は昭和52年に発足しました。半世紀に及ぶ歴史ある本会を、このような魅力ある会にして支えてこられた先輩方の想いを、私も受け継いでいきたいと思っています。

第26回 大宮退職校長会 美術展

11月10日～11月16日、大宮退職校長会の「第26回美術展」が、さいたま市立大宮図書館展示ホールで開かれ、大勢の方々にご来場いただきました。今回は絵画・書・写真・工芸の各部門に27名から64点の力作が出品されました。

参観者からは、「さすが教育者、努力することに結果あります。時遅しですが、私も頑張ります」「どの作品も、歩まれた人生の豊かさを感じます」「地元で生まれ育った住民として、毎年楽しく拝見しています」などの感想が寄せられました。来場者数は737名でした。（入江知彦）

第26回美術展 大宮退職校長会



令和7年度懇親旅行 浅草中部エリア散策と 銀座レストランでの懇親会



10月10日、午前10時、上野駅中央改札口に集合。参加者は、江原・加々美両顧問そして佐藤会長をはじめとする総勢18名である。今回も3グループに分かれての散策であり、講師陣は台東区観光ボランティアガイドの方々である。駅構内での会長あいさつの後、「翼の像」前で全体写真撮影。その後、各班ごとに散策を開始した。

浅草中部とは、浅草と上野の間の地域のことである。由緒ある古寺・有名人の墓所そして仏壇通り、厨房用品の全が揃う道具街など、見所いっぱいこの地域である。

コースを鳥瞰すれば、上野駅を出発し、浅草駅方面に向い、その後南下し、田原町駅で散策終了である。主な寺社の見学場所を挙げると

- 下谷神社 都内で最も古いお稲荷様、寄席発祥の地
- 誓教寺 天才画人・葛飾北斎の墓所
- 源空寺 法然の諱である源空に由来、伊能忠敬の墓
- かつば寺（曹源寺） 雨合羽商の喜八の墓、喜八は私財を投じて水はけ工事を行ったが、これに感動した河童が手伝ったという。



○東本願寺 築地の西本願寺と並ぶ浄土真宗本願寺派の総本山、朝鮮通信使の宿舎にもなった大寺

そして中部エリア散策の終盤は仏壇通り・かつば橋道具街巡りであった。道具街は多くの外国人観光客であふれていた。

今回の散策は約2時間余りで終了。その後、懇親会場へ。田原町駅から「銀座一丁目俺のフレンチ東京」を目指した。和気あいあいの楽しい時間は瞬く間に過ぎ、午後3時前、お開きとなった。

（星美千也）

令和7年度史跡めぐり 歴史と伝統が息づく 岩槻を訪ねて

11月28日午前10時、さわやかな秋晴れの中、岩槻駅に史跡めぐりを楽しみにしている20名が参集した。今回は岩槻郷土史研究会会長の熊谷富雄氏を招いて城下町岩槻の歴史と伝統を訪ねた。

佐藤会長の挨拶の後、東口

を出発し芳林寺へ。先ず目に入ったのが太田道灌の騎馬像。岩付太田氏最後の城主であった太田氏資が母の芳林妙春尼の冥福を祈った寺で、境内には市指定文化財「太田氏資宝篋印塔」の他、岩槻藩初代藩主高力清長の子、正長の宝篋印塔、道灌の霊廟があるなど見どころが多かった。

続いて愛宕神社に進んだ。その道すがら、大構（岩槻城と城下町の周囲を取り巻く土塁と堀）の一部が確認できた。愛宕神社周辺の土塁は昭和30年頃まであったそうで、当時の岩槻小学校の児童が通学に使っていたことや大風上げの見物などの話が聞けた。

その岩槻小学校を経由して浄安寺へ。阿弥陀如来を本尊とし、正面から立派な像を見ることができた。境内には岩槻藩初代藩主高力清長、徳川家康の孫徳松丸とその母竹の局の墓、遷喬館を開設した児玉南柯の墓などがある。また、山門前は正徳3年から昭和3年に営業していた武州鉄道（現蓮田から現川口の神根まで）が横切っていたという。

「武州鉄道小径」という看板



最後の遷喬館へ向かう「裏小路」と呼ばれる道はよく整備され、かつて武家屋敷が立ち並んでいた場所の面影を残していた。遷喬館の建物は平成15年、18年に解体修理・復元工事が行われ、県内にあつた藩校では唯一今に残る貴重な建物である。私塾で教育に情熱を注いだ児玉南柯の生い立ちや人柄についての話を心に刻み、今回の史跡めぐりが終了した。

（前島一夫）

シリーズ 私のときめき ライフ 8

保育者養成短大に勤めて

野口 一夫



私はかつて
文部省長期海外派遣でフランスを訪れた。

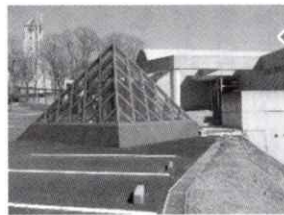
パリの中心一區のセーヌ川右岸にある世界最大の広さを誇るミュージアム・ルーブル美術館で窃盗事件が発生し、宝飾品9点が盗まれたというニュースが報じられた。ダ・ヴィンチのモナ・リザをはじめ、ミロのビーナス等の美術品3万5千点が展示されている世界遺産。1793年の開設。その後21世紀に向けて大改造され、1988年にその象徴としてナポレオン広場に設けられたのが、エントランスに設置したガラス製のピラミッドである。

本学（山村学園短期大学）の創立が1989年、平成元年、芙蓉館入口のガラス製のピラミッドの設置は1993

年、平成5年である。規模は違うが強い影響を受けたことがうかがえる。



ルーブルの
入り口



本学の芙蓉館
入り口

昨年に生まれた子どもの数（出生数）は、統計開始以降ついに70万人を割り込んだ。それに対して死亡数は160万5298人で、出生数との差に当たる「自然減」は過去最大となった。急速な少子化に歯止めがかからない危機的状况である。

日本の人口は約1億2千万人。その1割強の1400万が東京都の人口。埼玉県は約734万、そしてさいたま市

は135万。2番目の川口市は60万、3番目は川越市で35万。

東京23区をみると、公務員試験（保育士）は掛け持ちを防ぐため同日開催で8月の第4週の日曜日に実施となっている。唯一人口増の東京、埼玉県と比較すれば募集人数は区ごとに違うが、20名から100名近い数となっている。おまけに追加募集も行っている。いかに保育士の数が不足しているかの現状がうかがえる。実はここにチャンスがあると考え、本学の学生に都の公務員（保育者）挑戦を推進している。お陰様で年々合格者が増え、今年度は豊島区（5名）杉並区（2名）足立区（1名）計8名合格。県内では川越市（2名）、さいたま市（4名）、坂戸市（1名）ふじみ野市（1名）和光市（1名）計9名合格。

旧大宮市・さいたま市で3校（小・中）の校長を10年、山村学園短期大学の学長を14年。年2回の式辞（入学式・卒業式）を通算24年でまもなく48回を数えようとしている。昨今である。

同好会紹介

若さを保つ秘訣は

「北斗会」にあり

鯨 井 幹 夫

みなさんご存じのとおり、「北斗会」とはゴルフ大好き人間が集まった同好会です。令和7年度は渡辺光雄会長のもと24名の会員で構成し、年10回、2月と8月を除いた月にゴルフ大会を開催しています。そこではゴルフの腕前を競うだけでなく、よき仲間と語らう時間も大切にしています。

ゴルフの良いところは、年齢差や技量の差を越えて楽しめることです。本会でも年長の方は80を超えていますが、いつも若々しくプレーをされており、みんなのお手本となっています。なお、技量差を勘案して本会ではハンディキヤップ制を採用しています。また、大会には沢山の賞も用意しています。優勝・準優勝・3位・飛び賞を始め、ドラゴンやニアピン、バーディーやベスグロ賞などです。ハ



ンディキヤップ戦なので、優勝のチャンスは全員にあります。毎回、誰もが何かの賞に引っかけたっていないかと期待しつつ成績発表を待ちます。「北斗会」では、自然の中で身体を動かし、沢山歩いて仲間と語らい、そして誰もが上手くなりたいと切磋琢磨し努力する、そんなゴルフを目指しています。怪我や病気を乗り越えてきたメンバーもいますが、誰もが健康でゴルフを楽しみたいと願う月例会大会に参加しています。来月も「北斗会」に参加するぞ、そんな思いを持つことが若さを保つ秘訣になっているのかもしれない。

会員の声

社会貢献団体を奨励

吉岡 由和

さいたま褒章、叙勲の会は平成17年7月29日から大宮叙勲の会として発足し、その後さいたま市誕生に伴い、地区を拡大して現在の「さいたま褒章・叙勲の会」に改称した。この会は、各種の職歴からなる受章者の人々で構成されていて毎年、新年の集いや総会研修会などを開催し、その際に社会のため貢献している5団体を選出して表彰や記念品を贈呈している。ご来賓は県知事、さいたま市長、埼玉新聞社長、国会議員等の参加で奨励活動を継続しているが会員として深い意義を感じている。

知老和楽

大木 忠司

「年を取るの嫌だ。からだは動かなくなる、出来た事が出来なくなる」ということばを耳にする。確かに医者通いも増え、行動はままらなくなる。

人は生を享け成長し、仕事に精進してきた。高齢になれば身体が衰え、傷み弱るのは自然の摂理。しかし、私は気概だけは失わず

に居たい。リハビリにも通い衰えを緩やかにして、自分がやれることを果たしている。そして、助けてくれる家族や関係者の支援に「ありがとう」と感謝しつつ、心穏やかな日々を送っている。

ありがとう

河田 捷一

車椅子の生活になって、早や3年になる。今苦労しているのは、朝夕のパジャマの着脱である。介護士に脱がせてもらった時は、どうしても自分の目線でパジャマはちよつと高い所に無意識に置かれることが多い。しかし、私には届かず四苦八苦してしまう。そのような時には、介護士に頼んで取ってもらう。そのような時には「ありがとう」が自然に出てくる。今までどれだけ「ありがとう」を言ってきたか。以前の私には考えられないことである。

みびょう(未病・三病) 息災

坂井 俊夫

東洋医学に未病息災(病気の手前で元気にすごす)がある。私は同じ「音」で三病息災。一病は、7年前の胃ガンで胃半分切除。太

りすぎ解消。二病は脊柱管狭窄症。5年前と4年前と続けて朝動けなくなり、通院治療。運動と接骨院通いで日常生活。三病めは眼病。

10年前から緑内障で通院。昨年7月見えにくくなり、白内障と診断。両眼手術。白い幕のようなものはなくなったが依然ボヤー。緑内障、近眼、老眼、乱視が重なり、見えにくさ続く。転ばぬようゆつくり生活。生命戴いていることに感謝。ケアンズで46年ぶり同窓会

工藤 キヨ子

全ての仕事を終え振り返った84歳。子供らが旅費、予約、同行一切を引き受けケアンズに住む老夫婦宅に連れて行ってくれ46年ぶりの同窓会が出来た。年齢も住む場所も違うこの仲間は、某出版社が企画した「論文の中から全国3名」の仲間、欧州の学校視察を無料2週間招待してくれた思い出の人達だ。グレートバリアリーフとキュランダ温潤熱帯地域の二つの世界遺産を持つケアンズは住むには絶好の場所。冬でも22℃の気温だ。もう少し歩けるように今は週2回の水中ウォーキングに励んでいる。

忍びの者

丸橋 西重

運動音痴で体育は地獄でした。透明人間になれとも思いました。映画「忍びの者」を観た時は衝撃的で、市川雷蔵に憧れました。忍者になろう、と思いました。

学校から帰ると、私は木刀を持って山道を上り下り、木に登り木を相手に木刀を振り回しました。足腰は強くなり、忍び走りや忍び足等の術を会得しました。

当時の伊賀上野市長の著作や『正忍記』等を読み、学びました。

因みに、生家の近くには、真田氏の戦国の城「岩櫃城」と武田勝頼を迎えようとした館があります。

二人展

稲葉 一美

昔、平成9年4月から3年間、県立坂戸ろう学校長として勤務した。令和7年12月に当時の同校の元教諭二人から絵画展の案内が届いた。元教諭はAさん・Bさん共に70代女性。趣味で退職時からずっと描いて来たとの事。それぞれ20数点ずつ持ち寄り坂戸駅近くの画廊で二人展披露。早速、見学に。風景画・人物画は明るい色調や繊細で新鮮。元職員ら十数人もかけつけ、かんかんががくの議論。当時の職員会議の様でした。

九近傍の会

関根 廣

大学の同じ専攻は9人だった。男ばかりで高校、大学と別学の7年を過ごした。退職後は数学の用語にかけて、九(球)近傍の会とし

て年1度の宿泊の旅行を続けている。秩父の人が3人いたので、秩父と県外を交代で旅した。先日は小鹿野町で熊を用心しながら、両神山の全長76mもある「丸神の滝」を見ることができた。すでに皆傘寿を過ぎて4人は鬼籍に入ってしまったが、好奇心は旺盛である。来年は「品川の今と昔」をテーマに、発展する街や品川宿を探索する予定である。

さあ、どうする

中野 治代

習い事とボランティアに励み、ご近所とおしゃべりもし、結構充実した毎日を送っていた(つもり)。しかし最近、忘れ物や失敗で人にお世話になることが何回もあった。自分を笑って済ませている場合ではない。人の役に立つどころか迷惑をかけては私の主義に反する。こうなったら全てのことから退かなければと思う自分がいる一方、迷う自分もいる。そんな最中に、市から活動への感謝状を頂いた。これを潮時とするかまた迷う。とにかく好奇心だけは失わずに楽しく過ごせる日々を夢想中である。

四季から二季?

大野 光雄

今年は、厳しい暑さが長く続き、畑仕事も夕刻からやっと始められ

るような状況でした。秋もどこかへ行ってしまう。そのため、秋・冬野菜も大きな影響を受け、大根にはスが入り、白菜は病気になるなどの高温障害が多く見られました。ただ、胡瓜の収穫時期が大幅に延びるなどのプラス面もいくつかありました。



この極端な気候の変動がこれからも続く、春・秋が消滅して、四季から二季になってしまいます。日本の四季は、多くの旬の野菜や果実を私たちに与えてくれます。教室コーディネーターとして

小川 啓

放課後チャレンジスクールのスタッフ募集を自治会の回覧で見つけた。家の近くということもあり、見学に行くのと直ぐ仲間として迎えてくれた。最初は、校庭での子どもの達の活動の見守り。次に図書室での学習活動の指導などを体験。

昨年度、平成20年度の開設以来17年間代表としてこの会を作り上げてきた人が高齢等を理由に交代を希望。後任選出の中で、教室コーディネーターを引き受けた。

今は、子ども達の豊かな人間性の環境づくりのため、他のスタッフと協働しながら活動している。

コーヒールンバ

川本 順一

館岩少年自然の家勤務の時、さいたまへの出張で東北自動車道を走った。深夜の移動が多く、時々仮眠を取った。よく寄ったのが小さなパーキングエリアだ。数台の車が止まっているだけで、閑散としていた。眠気覚ましに自販機のコーヒーを飲んだ。注文を受けてから豆を挽き、ドリッブする。待つ間、音楽が流れる。思わず歌詞が頭に浮かぶ。「昔アラブの偉いお坊さんが…」西田佐知子が歌ったコーヒールンバだ。飲み終わりを車を進ませる。走りながら、なぜか、この曲が頭の中で渦巻く。

犬も歩けば……

佐藤 薫

「犬も歩けば棒に当たる」これは江戸カルタの「い」です。

私は長い間、この言葉の表す情景を考えたこともなく、調子のいい語呂位に思っていました。

ところが、この棒は泥棒を捕らえる六尺棒で、逃げていく賊に投げつけ足に絡ませ捕らえる棒、たという文を見つけ、このカルタの情景が一変しました。つまり、江戸には野良犬が多く泥棒もまた多かったいうことを表している言葉だと思ふようになりました。

はて、この想像でよいのでしょうか。

鳥見散歩

佐藤 博志

冬になると様々な野鳥が姿を見せてくれるようになるので、近所の芝川の土手を散歩している。カメラを片手に歩いて、野鳥の姿を見つけるとシャッターを切る。撮影した画像をグーグルレンズで検索すると「この鳥はカワラヒワです」などとAIが教えてくれる。便利な世の中になったものだ。おかげで土手周辺に40種類以上生息していることが分かった。

言霊

野澤 高

昨年11月7日頭痛と左目のたれがあつて皮膚科を受診し「帯状疱疹」と診断された。短歌が趣味の私は即興で「我が額ハンマーもって攻め来たる帯状疱疹根性悪し」と歌にしたら先生に受けて二人で大笑いした。それがいけなかった！翌日から頭痛は日毎に強さを増し最後は割れるような痛みとなり12月末まで続いた。根性悪いのはお前だろうと帯状疱疹から

しつぺ返しを受けたような気分だった。言霊恐し！

面接

橋本 栄

教員採用試験を終えた学生から面接試験の報告をしてもらうことがあります。「異性の生徒からライン交換を頼まれたら」、「校内盗撮についてどう思う」、「保護者からの電話があつた」など、つらい質問が多くなっています。それに、「自分を動物(色)に例えたら」、「無人島に持って行く物を一つ」などというものもあります。耐ストレス性をみたり、即応力を評価したりしているのかもしれない。新規卒卒者には、夢や希望、意欲や熱意を語るような質問をして欲しいと思っています。

年寄りの冷や水

菊池 悦夫

わたしは、数年前のコロナの流行の時、散歩を始めた。近くに「自衛隊大宮駐屯基地」があり、自宅からそこまで行き、一周して来るとおよそ4キロになる。初めは普通に散歩していたが、若者から年寄りまで大勢がランニングやウォーキングをしていてどんどん抜かれて行く。次第にこちらも負けまいと早足で歩き、抜かれないようになった。更に昨年からスポ

ーツジムにも通い始め、運動をしている。先日、3歳の孫を抱きあげたらぎっくり腰になってしまった。調子に乗ってしまった!!

奈文研の旧石器研究

松田 泰成

昨年の10月25日、公開講演会に参加するために奈良市を訪れた。これまでも講演会や遺跡発掘の現地説明会などに参加してきたが、旧石器研究とは珍しい。当然参加は抽選となった。幸運にも当選のはがきを手に入れた。

奈文研の正式な名称は「独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所」である。平城宮跡や飛鳥藤原宮跡等古代都城制の調査研究が主たる業務と聞く。カラー印刷で立派な資料は無料である。これは大変だと思ふ。そこで、同日発行の書籍を2冊、購入した。

元気でやっています

皆川 広嗣

体調不良により、退職校長会の仕事も全て退かせていただきました。その後体調は一進一退ですが、何とか現状維持を保とうと努力しています。そんな状況ですが、現役の校長だった当時の保護者と始めたPTAコーラスは、もう20何年になりますが、現在も続けて参加しています。声を合わせて歌う

ことは何にも増してリハビリにな
っていると思います。メンバーの
励ましにも支えられて、今年も3
月14日にステージに立ちます。こ
れからも声が出る限り、頑張っ
ていきたいと思っています。

初めての着ぐるみ体験

渡邊 朋久

昨年10月人権擁護委員を拝命し
た。主な仕事は「人権相談」だが
実際にはいろいろな啓発活動に駆
り出される。その一つで、生まれ
て初めて「KEN君」と
いう着ぐるみに入った。多分暑苦
しくて重いだろうと思ったら、
さにあらず。着ぐるみは空気で膨
らませた風船状で中にいると暑さ
も重さも感じない。入っているの
がこんな爺さんとも知らずに集ま
ってくる小さな子どもたちと、写
真を撮ったり短い手で握手をし
たり、その触れ合いが楽しくて、病
みつきになりそうな体験だった。

阪神優勝セールの沖縄旅行

菊池 保夫

久しぶりの沖縄。アメリカンビ
レッジの夕食では、駐車場は満車、
居酒屋は賑わいネオンが煌びやか
であったり、国際通りの居酒屋で
は近くの男性達と話が弾み、楽し
く様々な情報交換できたりし、外
食がより美味しくなりました。

美ら海水族館では、餌付けでの
ジンベイザメの立ち泳ぎが見られ
圧巻でした。景勝地の古宇利島や
大橋、うに丼も美味でしたが、海
ブドウの味が最高でした。何度も
エイサーを見たり、何処に行つて
も若者が多く、エネルギーシユな
沖縄を感じることができました。

東京の庭園巡り

関根 俊幸

東京にある旧大名庭園などのい
ろいろな庭園を巡りました。四季
それぞれに咲き誇る草花、立派な
池や庭石など、日本庭園の美しさ
を再確認することができました。
また、旧岩崎庭園や古河庭園など、
東京に残された明治時代から続く
建物、文化財なども見事でした。
各庭園のイベントやスタンプラリ
ーも楽しめました。これからも少
し足を延ばしていろいろな庭園を
楽しみたいと思います。

そばスタンプラリー

中山 正一

私は大の蕎麦好きで、評判の蕎
麦屋を探しては、よく食べに行く。
先日、出流そばスタンプラリー
というのを見付けた。お店のスタ
ンプを五つ集めると、オリジナル
グッズがもらえるという。面白そ
うなので、早速、出流山満願寺を
目指して出掛けた。家から約80キ

ロ、片道3時間の道のりを5回も
通い、ついにオリジナルタオルを
ゲットした。

勿論、噂の蕎麦屋で美味しい蕎
麦もお腹いっぱい食べて、満足。
たまにはこんなお出掛けも
いいかな。

新たな道路を楽しむ

新井 英人

令和8年2月産業道路天沼工区
が完成する。そこで、当自治会で
は、何か節目をとの話が持ち上が
り、市に相談して開通式・開通イ
ベントを実施することとなった。
地域の特色を生かした式典やイ
ベントになるよう内容を検討し、
地元の小中学校吹奏楽部の演奏・パ
ン屋の出店・消防署のデモンスト
レーション等々、様々な協力をし
てくれることになった。

当日は、自治会役員総出で、「新
たな道路の開通を祝い、一度きり
の路上イベント」のもと、皆が楽
しめるイベントを目指している。
生命尊重と助け合いの気持ち

篠原 邦雄

退職してから青少年赤十字賛助
奉仕団の活動を始めた。研修会で
赤十字について、災害でも紛争・
戦争（敵味方関係なく）でも、逸
早く人命救助の行動をする組織で
あることを改めて学んだ。昨年、

ガザでは、赤十字や国連も攻撃さ
れ死者も出た。それでも救助活動
を続ける姿には頭が下がる。近年
世界では武力衝突が多い。赤十字
の活動は、人類のセーフティネッ
トとして、益々存在意義を高める
だろう。子供たちも、活動を通し
て、生命尊重や助け合いの気持ち
を育てていってほしいと思う。

黄金の70代

眞嶋 廣久

70歳になった。古希である。世
間的に見れば見事なジジイである。
しかし、まだ、働く場をいたたい
している。生活自体は現役時代とさ
して変わらないような。

そんな中、「70歳が老化の分か
れ道」（和田秀樹著）という本を
読んだ。意欲を維持する、社会と
関わるなど、これまでやってきた
ことは間違いではなかったのかも
と少し安心した。また、あれこれ
我慢する必要はないんだとぐっと
気持ちよくなった。黄金の70代
だそうである。残された日々を大
切に生きていこうと思う。

全く理解不能

須田 博

友人から現展という展覧会の招
待状をいただいた。東京新美術館
会場に入ってまずびっくり。現代
絵画の巨大な作品が展示されてい

て実に壮観だった。だが、何が
いのか訳がわからんというのが本
音。奇抜、グロテスク、無遠慮、エ
ゴ、無節操、狂気、分裂……。こ
こまで来れば、もう立派に気違い
じみている。題名もめちゃくちゃ
で意味不明。本気かと疑う。そん
な作品が100点くらいはあった
か。見ているだけでこっちの感覚
がおかしくなりそうで、熱心に鑑
賞していられる人が異様に見えた。

地震の備え

加々美 健一

2年前から地域自治会の役員を
続けている。去る11月下旬、住民
を対象に防災講習会を開催した。
内容は、家具の転倒防止法、防災
グッズの紹介、消火器の使用法、
安否確認タオルの活用法、ポリ袋
を使った炊飯実演等であった。事
前に回覧板やポスター掲示で周知
を図ったが、参加者は、約500
世帯中の60名。予想より少人数で
あった。この頃、地震が頻発して
いるが、地域の関心は決して高く
ない。埼玉は関東直下型地震の工
リア内だ。備えあれば憂いなし。
心しておきたいものだ。

ボール1個とクラブ1本あれば良い

秋山 隆

グランドゴルフを始めてから5
年、今も週2回（2時間）程やつ

ている。いつのまにか仲間も増え6人でコースを回っている。天然芝なので足にもやさしく、高齢者には良い運動になっている。又、お金がかからない。市の施設なので市民は使用料が無料。ボール1個とクラブ1本あれば良い。スコアは、二の次。楽しくおもしろく笑い声をあげながら回っている。そんな仲間と、秋には秋葉の森でバーベキュー、冬にはランチ忘年会。色々な生き方をしてきた方々との交流が日々の生活に刺激と元気を与えている。

布施柿

入江 知彦

昨年の秋は各地で熊が出没し、農作物を食い荒らしたり、人に危害を加えることがよくあった。その熊が好んで食べたものが柿の実である。田舎には餌の少なくなる冬を前に、鳥や動物などのために全部取らないで少し残しておく布施柿と言われる物が必ずある。今ではそれが人間に危害を加える熊の餌になってしまい、柿の木や枝を切り倒す始末である。

子ども達に人間の優しさや動物愛護を教える時によく使ってきた布施柿のことも、今のご時世では話せなくなりました。



きつと親を見て子は育つ

中村 秀男

朝の国道の交差点、信号は赤だ。向かい側から若い母親？が娘の手を引いて渡って来た。「信号は赤ですよ」「・・・」「危ないですよ」「うるせえ」その親子は私と目を合わせることもなく去って行った。

数日後、駅の近くの踏切が鳴り始め、立ち止まった。私の横に若い父親？と息子が立ち、「○○○、運転士さんに手を振ろう」「うん」二人は笑顔で運転席に手を振った。すると、ブザーと警笛が鳴り、走り始めた電車の窓から白い手袋が振り返してくれた。「わあーい」その男の子は跳び上がった喜んだ。

私の一番の楽しみ

奥村 裕次

2013年6月26日、私は妻と東京ドームの日本ハム対ソフトバンクの観戦に行っていました。ラッキーなことに、その試合が大谷翔平選手のリーグ公式戦初先発の時でした。長身でスタイル良く、まるでモデルのようでした。「素敵だわ」が妻の言葉でした。試合は6回まで3対3の同点で、その回で彼は降板しました。その大谷翔平選手が、今や世界一のプロ野球選手になりました。私はほとんど毎日、BS放送の大利ーグ中継で彼の活躍を見ていま

す。3月の開幕が楽しみです。

「こんな景色、見たことがない」

柴崎 邦夫

外出先では、時々思いもよらない景色に出くわすことがある。

東大准教授M氏の講話を聴くために、去年の8月、東京駅丸の内南口に隣接したインターメディアテクに行った。この施設は、日本郵便KKと東京大学総合研究博物館の協働による入館無料のミュージアムである。心惹かれる景色は、人によって異なるが、私の場合は魚の骨の窓越しにあの東京駅舎が目に入った時である。

「こんな景色、見たことがない」
気になります

中村 勝光

定年退職後、再任用で5年間、会計年度任用職員として3年間、学校地域連携コーディネーターとして勤務し、昨年3月に完全に職を退きました。

家にいると近くの中学校のチャイムが聞こえます。「あつ、今2時間目が終わったところだな」。小・中学生がぞろぞろとお昼前に下校するのを見かけた時は「今日は何だろう。今頃だと市の教育研究会か?」。休日に校庭の横を自動車で通ると「テニス部はよく練習しているなあ」。

学校のことが気になります。

地道に継続

西川 和利

現在のスポーツジムに通い続けて23年、ジム歴は通算25年になる。私が指導主事2年目の時、当時の指導主事仲間と3人で撮った写真を見て衝撃を受けた。私が太っていると思った2人と自分も同じ体型だったのである。それからである。ジムに通い始めたのは、今通っているジムでは、初めはエアロに夢中になっていたが、今は、体幹トレーニングを中心としたレッ

スンを続けている。当時に比べ20キロ近く減量した。これからも地道に通い続け体型を維持したいと思っている。

「生きがい」

青木 洋

私は4人家族でした。両親が亡くなり、妹もがんで若くして亡くなりました。私は結婚して2人の娘を授かり、妹も結婚し同じく2人の娘を育てました。お正月は大宮の氷川神社に4人の女の子を連れて家族で初詣に行きました。両親は嬉しそうに孫たちにお年玉を渡していました。私は、今その気持ちがよくわかります。4人の娘たちの子どもは、合計8人います。上は、小学4年生から下は0歳までです。その孫たちと旅行に行ったり、公園に遊びに行ったり、買

い物に行ったりするのが「生きがい」となっております。今年は、孫たちと出かけるために8人乗りのワンボックスカーを購入する予定です。孫たちと楽しく出かけられるよう元気に働き続けます。

広島の世界遺産を訪れて

原田 守康

8月に広島を訪れた。初日は宮島へ入った。清盛通りをぬけ、浜辺を眺めながら厳島神社に向かうと所々で穏やかそうな鹿を見かけた。初日の午後と翌日の朝と神社見学。初日は海の中に社殿が浮かんでいるようであったが、翌朝は潮が引け、雄大な社殿を土台から見られ大鳥居の真下まで近づけた。荘厳な雰囲気漂う神社、歴史的な重みを感じた。2日目の午後は平和祈念資料館を見学、外国人も含め身動きが取れないほどであった。80年前の悲惨な出来事は二度と繰り返されないよう、祈りたい。

「新秩父三十四観音」

田代 敏生

自宅近くに散歩の折によく立ち寄る神明神社がある。その鳥居脇に「新秩父世番札所慈眼院」の看板があることに気が付いたのは、昨年の秋のことだった。「えっ」と思い調べてみた。すると、江戸時代、秩父三十四観音霊場の「写し霊場」として、市内東部、見沼た

んぼ周辺に創設されたとのことであった。知らなかった。

今年は、ちょうど12年に一度の「千年御開帳」の年に当たる。これも坂東・秩父霊場巡礼の縁と思いい、この春のお彼岸の時期に巡ろうと計画している。

いつまで働くか

大澤 敬

幸い今も元気に働いているが、最近辞め時を考える。働ける場所があり、働ける環境に恵まれているのはありがたいことだが、完全な自由にも憧れる。「健康寿命」を考えると、自由に動ける時間はそう長くはない。健康な間に好きなことをしたいと思う気持ちも強い。ただ、働いているからこそ自由な時間を貴重に感じることも事実で、時間が十分あっても持て余す恐れがあることも自覚している。だから悩ましい。

仕事を辞める決断をどんな基準でしたのか、諸先輩方の経験を聞きたいと思う。

人生初の海外

鍋木 隆

昨年夏、人生初の海外旅行に行きました。初なのになんと「デンマーク、しかも一人で。長男夫婦がデンマークに海外赴任しており、二人がいるうちに」と一大決心した次第です。羽田からコペンハーゲン



ンまでスカンジナビア航空の直行便で19時間。CAを含め日本人は誰も乗っていません。

頼みの綱の「翻訳アプリ」も機内では使えず、英語が全く話せない私は超緊張。コペンハーゲン空港で入国審査を終え、長男夫婦に会うまで、ハラハラドキドキの連続でした。

つながりの大切さを知る

石塚 利夫

久しぶりに旧友と会った。若いころの面影はあるが、互いに歳を重ねた姿に驚かされた。けれど、自分も同じ道を歩んできたのだと静かに受け止める時間にもなった。近頃はフレイル予防を意識し、人とのつながりを大切に地域での交流を続けている。今回の再会はその大切さを改めて感じさせてくれた。仕事柄、元気に過ごす人の共通点が思い浮かぶ。日々の暮らしをていねいに整えていること。見習っていききたい。

今年は「秩父」へ！

新井 栄司

以前、森村誠一の「幼い日の遠足」を読んで心を打たれた。秩父は「遠い所」というイメージがあるが、実は見どころや美味しいものがたくさんある。高校の時

友達と三峰口の駅で自転車を借りて行った三峰神社。後にバス旅で秩父三社巡りに行った時、びっくりした。大学の授業で訪れ、泊まった民宿で食べたそば。現役最後の年、特別支援学級の生徒と宿泊で行った長瀬。鍾乳洞とかき氷。さて、今年は秩父34ヶ所観音霊場の午歳総開帳の年。久しぶりに秩父に足を運んでみようかな。

専門職としての価値

田邊 泰

私が勤務している教育学科では、教員免許をとらない学生も結構いますが、頑張つて教育免許をとつても、教員採用試験を受けずに、一般企業に就職する学生も少なくありません。教師という仕事に遣り甲斐や魅力を感じながらも、職業として教師を選ばないのです。専門職としての社会的な価値やネットワークのみならず、待遇面を考えると一般企業にはかなわないからです。文科省は教職に必要な単位を減らすようですが、そうすることで教師の専門職としての価値が、益々下がらないことを祈るばかりです。

戦後80年を考えて

前島 一夫

定年退職から4年、精神的・時間的に平和ボケが始まりそうな昨年、戦後80年を自分なりに考えよ

うとかつて読んだ小説「永遠のゼロ」(男たちの大和(上・下))をじっくり読み返した。戦時中の異常な状況下に全ての国民の基本的人権が踏みにじられたことに強い怒りを覚える。桶川の川田谷に「桶川飛行学校平和祈念館」がある。各地から集まった若者がここで陸軍航空兵になるための操縦教育を受け、戦地に向かった。身近にある貴重な施設なので多くの人が訪れ、学んでほしいと思う。

気づき50年前の親心

星 美千也

大学1年の時、胃を切除し50日間、入院し、その後一人暮らしが始まりました。親からの連絡は余りなく、その時感じたのは、「親と子どもの健康には無関心なのか」ということでした。ところが、去年娘の病気が発症し、本当の親心の辛さを感じました。その時、気づいたことは「あの頃のわが両親の親心」です。本当に辛さと切なさを感じながら、電話もなし、遠く離れていては簡単には連絡が取れなかったに違いありません。今更ながら、両親の姿が懐かしく思い出され、改めて感謝しています。

恩返しのもりで

清水 肇

定年退職後、教育委員会事務局で再任用として3年が過ぎようと

しています。当初は、慣れない雰囲気や業務で続ける自信はありませんでしたが、現在は、人間関係や業務内容に慣れ、気持ちよく、前向きに仕事をさせていた、だいたいいます。特に、指導訪問で、年間20校あまりの小学校に伺い、授業を参観して、助言をしています。大した助言はできていませんが、先生方が少しでも元氣や意欲が出るように努めています。これが、お世話になった教育界への私の恩返しになればと思います。

青少年赤十字との出会い

富田 英雄

定年後、青少年赤十字賛助奉仕団の会員になった。私が青少年赤十字に出会ったのは、高校1年生の時。先輩に誘われ、JRC同好会に入った。入部早々、先輩方の陰謀で(笑)、埼玉県高校生協議会の役員になってしまった。赤十字の歴史、精神、活動を学ぶとともに、役員の仕事、広報誌づくりを夢中でやった。大変だったが、そのときの経験、出会った仲間のおかげがえのない財産となった。その後、教員として初めて勤務した学校でJRCを担当した。今、また、青少年赤十字に携わっている。



追い込む!

石田 耕一

仕事上の必要から、総合的な学習の時間など自分が深く学んでこなかった分野について研究を迫られる。その度、なかなか着手できず、夢に出るまで追い込まれる。間際になって、関係文献を漁り、思考し書字化する。しかし、やったことは自分の血肉になり強みになる。転じて、関わっている学生たちも同じで、100字以上で書く、何々の形に仕上げると最終形を示してあげると何とかやり遂げる。追い込み最後に何とか片を付けたこと改めて考えている。

自分の好きな

加藤 明良

再任用5年が終わり、ほっとした毎日。車中泊で温泉めぐり、星空の写真撮影に海外へ、自由な時間ができてやる気に満ちた生活も半年も過ると新鮮さが薄れてくるものです。次はどこに何をしに行こうか、そのためにあれこれと考えるのですが、改めて自分の好きな事は何だろうかとか問いかけています。大学生を連れて秩父長瀬を訪れたり、子どもたちに星空を見せたり、自分が好きな事を他人に伝えることがやっぱり好きなんだなあと思うこの頃です。

指導の言葉・指南の言葉

三村 悟

イシス編集学校というネット上の学校で学んだ。教室の仲間は、医大生から税理士まで様々。「お題」に回答すると師範代から指南が届く。顔を合わせることはなく、テキストのやり取りだけが不思議と心が動いた。特に、受容してもしえないと、指導の言葉は頭上を通り過ぎることを実感した。「そうは言っても」と反発の心が湧いてくるのだ。省みて、担任した児童や接した教職員の言葉をどれたけ受容できていただろうか。思いが先走り、いきなり指導の言葉を押し付けていたことが悔やまれる。

ゆっくり考える賢沢

高後 仁

退職して間もなく4年、幼児教育を志す学生に授業を行う毎日。ただ以前と少し違うのはゆっくり考える時間をもてるようになったこと。学生の話聞き、本を読み、時には研修会に参加し、そしてゆっくり考える。今までは経験や前例に基づいて急ぎ判断していたが、今は自分で納得いくまで考え結論を出す。その時間が新鮮で賢沢に、そして日々の充実にもつながっているように感じる。もう少しこの生活を続けてみよう。



新会員コーナー どうぞよろしく

不思議な気持ち

小 熊 誠

現在、特例再任用で校長をさせていただいています。今のところ来年度も同じ役職の予定です。同時に、退職校長会にも昨年入会させていただきました。退職もしていない、退職金もいただいていない、でも退職校長会にも入会している。何かとても不思議な気持ちです。現在、60歳で完全に退職される方は減ってきています。後輩のために私のような気持ちをいかに解消していくのか御指導いただければ幸いです。

今後ともどうぞよろしく願います。

とにかくチャレンジ

戸野塚 晃

みなさん、こんにちは。今年度より退職校長会に入会させていただき、たくさんさんの刺激をもらうことができています。その中でも自分が今まで、仕事一筋に突っ走ってきたために通り過ぎてきたことがたくさんあることに気がつきました。バイクの免許に再チャレンジすること、サッカーのシニアリーグに再チャレンジすること、生

成AIにチャレンジすること、たくさんさんの目標が浮かんできます。

どこまで、達成できるかわかりませんが、まずはチャレンジ精神あるのみだと思っています。



近況について

小 林 正 美

本年度から新会員としてお世話になります。どうぞよろしくお願い致します。現在は、さいたま市教育委員会教育課程指導課に勤務し、主に日本語指導員派遣事業を担当しています。学校を訪問して、日本語指導を要する子どもたちと面談を行ったり、授業を参観したりして、子どもたちの声に耳を傾ける日々です。文化や言葉の違いを目的の当たりにしながら、支援の在り方を考えています。子どもたちとの出会いを励みに、新たな学び多き毎日を送っています。微力ながらお役に立てれば幸いです。

中学校での勤務

宮 城 裕 毅

私は昨年度、37年間の教職員生活を終え、役職定年を迎えました。ずっと小学校で勤務してきた私が初めて中学校で勤務することになりました。職が変わることへの戸惑いよりも、中学校で勤めることへのドキドキのほうが大きかったのが正直なところです。

新会員の挨拶

小 林 正 樹

このたび、大宮退職校長会に入会いたしました。小林正樹と申します。

長年の教職生活を終え、ようやく自分の時間を持てるようになった矢先、現在は同居する母親の介護に日々向き合っております。そ

んな中、同じ教育の道を行ってきた皆さまとつながれることを心からうれしく思っております。

私は、県立工業高校の実習助手として勤務しながら大学を卒業したあと、大宮市の中学校に採用され、最後は大谷口中学校の校長として4年間務めました。この会での交流を通じて、皆さまから元氣や知恵をいただき、人と人との関わりの中で前向きに歩んでいきたいと考えています。介護の合間を縫っての参加になるかもしれませんが、皆さまとお会いできる日を楽しみにしております。どうぞよろしく願います。

中学校で勤め始めると、驚かされるのがいくつもありました。学総という言葉。小学生よりもよく挨拶をする中学生。面接練習もしている子が多かったです。楽しい中学校勤務を満喫しています。

専門部会報告

今年度も各専門部の活発な取組が行われ、12月の理事会で以下の報告がされた。

職員2名である。
現在、さいたま市教育委員会では「校内教育支援センター（Solaるーむ）」、「さわやか相談室」をはじめ、市内6カ所に「あおぞら」「はばたき」などの教育相談室を設置して、多様な学びの場を保障している。平成8年度4月には、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）として「さいたま市立いろどり学園小学部・中学部」を開校予定である。「いろどり学園」は小・中一貫型小学校・中学校で、特別に編成された教育課程により教育活動が実施されることであった。

今年度の研修会は、10月23日に「さいたま市子ども家庭総合センター（あいばれつと）」にある「総合教育相談室」を訪問した。テーマは「児童生徒の不登校問題を考える」である。

初めに施設内を見学させていただき、その後お話を伺った。参加者は佐藤会長、渡邊副会長をはじめ研修部7名、総合教育相談室からは室長ほ

おめでとうございます

次の方々がめでたく上寿・米寿・傘寿を迎えられました。

〈上寿〉	清水 宏氏	大正14年10月11日生
〈米寿〉	原田 光三氏	昭和12年4月23日生
	中村 克氏	昭和12年11月20日生
	澁川 侶章氏	昭和13年1月6日生
	浅香 敬氏	昭和13年1月21日生
	河田 捷一氏	昭和13年3月13日生
〈傘寿〉	稲葉 一美氏	昭和20年4月21日生
	佐藤 邦彦氏	昭和20年6月21日生
	安野 進一氏	昭和20年8月12日生
	丸橋 西重氏	昭和20年8月20日生
	澤邊 和彦氏	昭和20年8月30日生

桑原部長から具体的な研修内容について講話があり、活発な質疑応答が行われた。

計報
慎んでご冥福をお祈り
申し上げます。

竹間 良二氏(91歳)
令和7年8月8日逝去
石川 正夫氏(86歳)
令和7年11月2日逝去
並木 友次氏(96歳)
令和7年11月16日逝去
瀬田 良宏氏(89歳)
令和7年12月13日逝去
木内千代子氏(99歳)
令和8年2月9日逝去

広報部

会員だより第64号は、内容確認、原稿入稿、校正作業等を経て、9月17日の理事会で発行することができた。

第2回部会で会員だより第65号の内容を検討した。同好会、だよりや私のときめきライフなどとともに、「会員の声」欄の原稿依頼が話題となった。「会員の声」欄は6ページ、56名の原稿を予定しており、昨年同様に文字数を15字×15行にしている。今回はパソコン等での原稿の送信先を広報部眞嶋幹事宛に変更して各会員に原稿執筆のお願いをすることにした。

原稿の締め切りは令和8年1月9日とし、原稿入稿後に校正作業等を経て、3月の理事会での発行を予定している。

編集後記

年末・年始はとても慌ただしい日々が続きます。小さい頃はお年玉をもらい、友達といろいろな遊びに興じていましたが、年を重ねるとともに状況も一変してきました。今や正月といえば、「駅伝観戦」。実業団駅伝から箱根駅伝とテレビの前が指定席。

今年の箱根は、近年まれにみるデッドヒートでした。中でも異次元の走りを見せた青山学院の黒田選手、誰もが度肝を抜かれていたようです。日々の練習の成果と言ってしまえばそれまでですが、人知を超えたものを感じざるを得ませんでした。以前「その1秒を削り出せ」「死にものぐるいだががんばれ」という言葉を聞きましたが、老いとともに、今となつては遠い昔のような気がします。だからこそあの走りに、あそこまでの過程に感動するのかもしれない。

年齢を重ねた今でも、何かにチャレンジすることは、豊かな人生につながります。皆様からいただいた「会員の声」を拝読する中で、改めてそんな思いを強くもつことができました。また、皆様からのお便りをお待ちしています。

〔編集委員〕佐藤博志(副会長)
中山正一 眞嶋廣久 新井栄司

